2016年3月期　第1四半期
決算概要

テルモ株式会社
上席執行役員 IR・広報室担当
北畠 一明

2015年8月4日

決算総括：売上・営業利益ともに二桁伸長

（億円）

	14年度Q1	15年度Q1	増減率	為替除く
売上高	1,149	1,287	+12%	+5%
粗利益	607 (52.8%)	690 (53.7%)	+14%	+7%
一般管理費	379 (33.0%)	417 (32.5%)	+10%	+2%
開発費	67 (5.8%)	79 (6.1%)	+18%	+10%
営業利益	161 (14.0%)	194 (15.1%)	+21%	+18%
(のれん等償却除く)	202 (17.6%)	245 (19.1%)	+21%	+15%
経常利益	144 (12.6%)	206 (16.0%)	+43%	
純利益	84 (7.3%)	145 (11.3%)	+73%	

期中平均レート			
	US$	102円	121円
	EUR	140円	134円

- 売上　：全カンパニーで好調な出だし。海外カテーテル、ニューロが牽引し二桁伸長
- 営業利益　：売上拡大に伴う粗利益の増加が販管費の増加を上回る
- 経常利益　：前年同期の為替差損（8億）に対し、今年度は差益（18億）
- 純利益　：特損の減少。税制改正、過年度税額の修正による法人税負担率の減少

TERUMO　© Terumo Corporation　2015/8/4　2/19

当四半期の売上高は1,287億円、前年同期比12%増、為替の影響を除き5%増となりました。全カンパニーで好調なスタートとなりました。特に海外のカテーテル、ニューロバスキュラー事業が牽引しました。

粗利益は690億円、前年同期比14%増、為替の影響を除き7%増となりました。

一般管理費は前年同期比10%増、開発費は18%増、販管費合計で11%増となりました。

売上の拡大に伴う粗利益の増加が販管費の増加を上回り、営業利益は、前年同期比21%増、為替の影響を除き18%増の194億円となりました。為替の影響を除いても二桁の伸長となりました。

経常利益は、前年同期比43%増の206億円となりました。主な要因は、前年同期の為替差損8億円に対し、当四半期は18億円の差益が発生した事によるものです。

純利益は、前年同期比73%増の145億円となりました。純利益の増加要因については、次のページでご説明いたします。

特別損益・法人税

（億円）

	14年度 Q1	15年度 Q1	
経常利益	144	206	前同比+43%
特別損益	−7	+0.4	14年度 固定資産処分損 −3 減損 −4
税前利益	138	206	前同比+50%
法人税等合計 法人税等負担率	−54 39%	−61 30%	税制改正 −6 過年度調整等 −11
純利益	84	145	前同比+73%

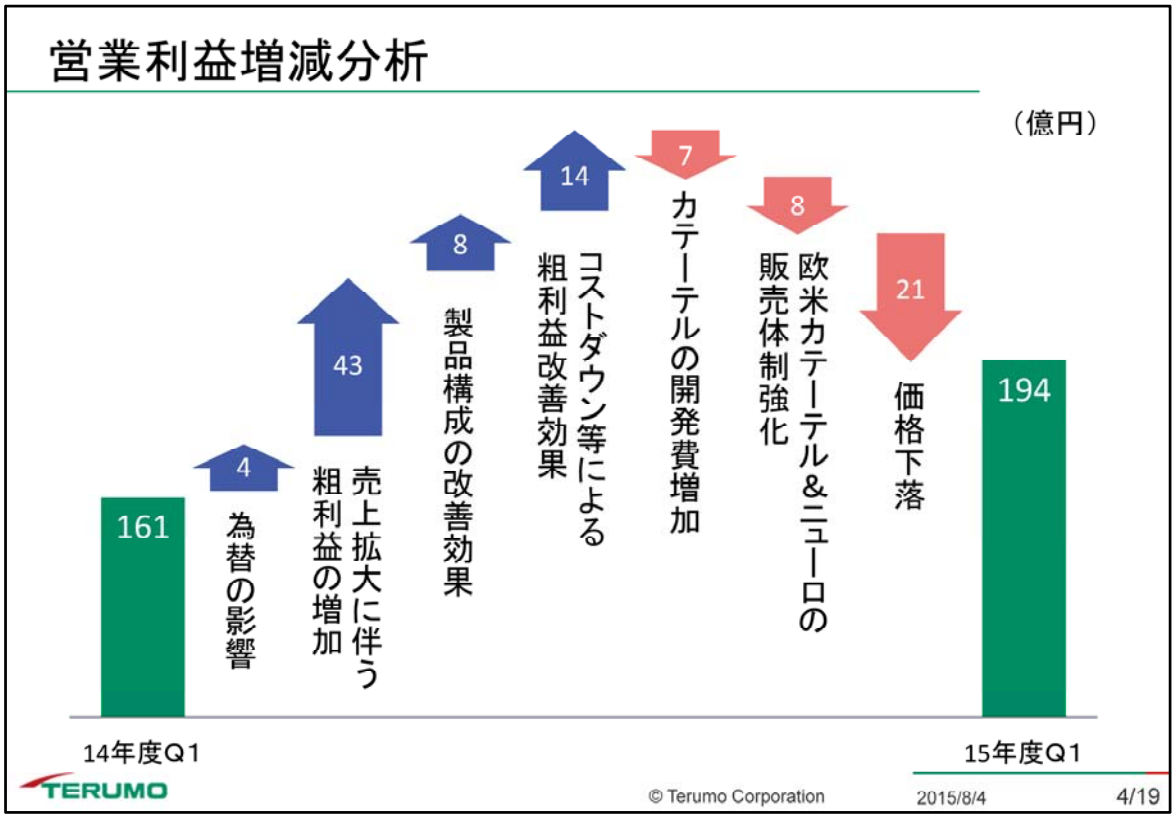
TERUMO

© Terumo Corporation

経常利益は、前年同期比43%増でしたが、前年同期の特別損失が、固定資産処分損3億円、減損4億円、計7億円であったのに対し、今期は特別損益がほぼ0となった結果、税前利益は50%増となりました。

法人税等は、税制改正の影響による支払減で6億円、過年度調整等で11億円の負担減となりました。その結果、法人税等負担率は前年同期の39%から30%へと減少しました。

過年度調整は一時的な要因ですので、2015年度通期の法人税等負担率は、当四半期の水準よりも上がる見込みですが、前期よりは低くなる見込みです。

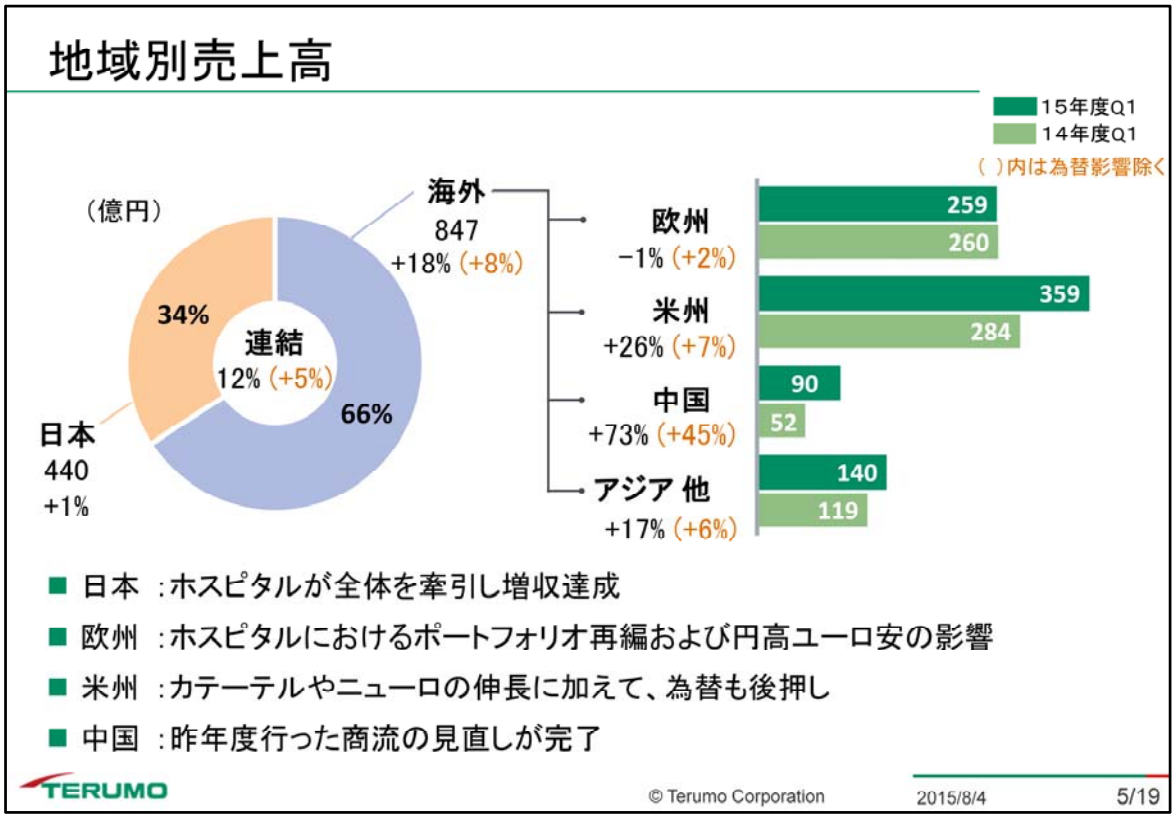


営業利益の増減分析です。

プラス要因は、為替の影響が4億円と小さく、売上の拡大に伴う粗利益の増加が43億円と最も大きく寄与しました。加えて、製品構成の改善効果が8億円、コストダウン等による粗利益改善効果が14億円でした。

一方、マイナス要因は、カテーテルの開発費増加7億円に加えて、欧米のカテーテル・ニューロバスキュラー事業において、前期に販売体制強化に向けた人員増加を図った事により、前年同期比で8億円の費用増加となりました。価格下落は21億円でした。

その結果、前年同期の営業利益161億円に対し、当四半期は194億円へと増加しました。



地域別の売上高構成比は、日本34%、海外66%となり、日本と海外の比率がほぼ1:2となりました。

日本の売上高は、ホスピタルカンパニーが牽引し、前年同期比1%の増収となりました。海外は18%の増収、為替の影響を除き8%の増収となりました。

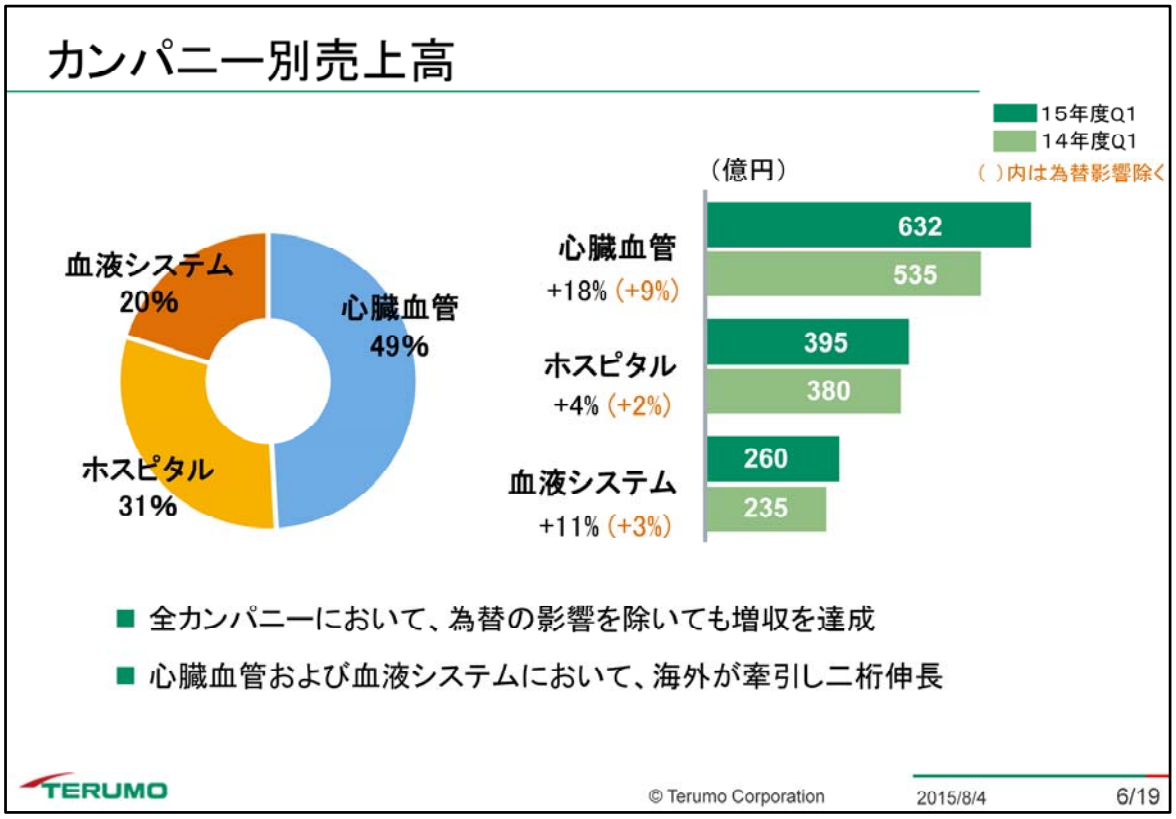
海外の内、欧州のみが減収となりましたが、主な要因は2点あります。第一に、ホスピタルカンパニーでのポートフォリオの再編です。収益性の低い注射針・シリンジのビジネスの縮小を進めた結果、ホスピタルカンパニーの欧州売上高は、為替の影響を除き、前年同期比16%の減収となりました。第二に、円高ユーロ安です。一方、心臓血管カンパニーのカテーテル事業は堅調に推移しました。

米州、中国、アジアは順調に推移しました。

米州は前年同期比26%の増収、為替の影響を除き7%の増収となりました。

中国は、前期は商流の見直しの影響により、売上が伸び悩みましたが、商流の見直しが完了し、当四半期は73%の増収、為替の影響を除き45%の増収となりました。前期を除くと、過去数年は20%～30%程度の伸長率でしたので、従来の水準に戻ってきました。

アジアは前年同期比17%の増収、為替の影響を除き6%の増収となりました。
海外全体では18%の増収となりました。



当四半期は、全カンパニーで増収を達成しました。特に心臓血管カンパニー、血液システムカンパニーについては二桁の伸長となりました。その結果、心臓血管カンパニーの売上構成比は、ほぼ5割へと増加しました。

この後のページで、カンパニー別の詳細についてご説明いたします。

心臓血管カンパニー：二桁の増収増益を達成

（億円）

	14年度Q1	15年度Q1	増減率	為替除く
売上高	535	632	+18%	+9%
事業利益（率）	114 (21%)	141 (22%)	+24%	+22%

＜売上面＞

- ■海外におけるカテーテルやニューロの売上伸長　＋ 72億
- ■中国での商流の見直し完了。顧客カバー率の拡大　＋ 22億
- ■欧州を中心に、Ultimaster（新DES）が順調に拡大

＜利益面＞

- ■海外カテーテルおよびニューロの売上拡大による利益増とポートフォリオミックスの改善

TERUMO　© Terumo Corporation　2015/8/4　7/19

心臓血管カンパニーの売上高は、前年同期比18%増の632億円、事業利益は24%増の141億円となりました。

売上面では、中国を除く海外のカテーテルやニューロバスキュラー事業の売上伸長が72億円、中国の商流の見直し完了に伴う増収が22億円となりました。加えて、昨年、欧州、アジア、中南米で発売した「Ultimaster」は、欧州を中心に順調に売上を伸ばしました。下期に日本での発売を予定しております。

利益面では、主に海外において、収益性の高いカテーテル、ニューロバスキュラー事業の売上拡大に伴う利益増が寄与しました。その結果、ポートフォリオミックスが改善し、事業利益率は前年同期比1ポイント改善の22%となりました。

ホスピタルカンパニー: 収益性は回復基調

（億円）

	14年度Q1	15年度Q1	増減率	為替除く
売上高	380	395	+4%	+2%
事業利益（率）	46（12%）	56（14%）	+23%	+25%

＜売上面＞

- ■日本：市場環境に回復の兆し　＋ 13億
- ■欧米：ポートフォリオ再編の取り組み　▲ 7億

＜利益面＞

- ■高収益ビジネス（D&D、DM）の拡大によるポートフォリオミックスの改善

TERUMO　© Terumo Corporation　2015/8/4　8/19

ホスピタルカンパニーの売上高は前年同期比4%増の395億円、為替の影響を除き2%増となりました。事業利益は23%増の56億円となりました。

売上面では、前年同期は消費税増税等、国内の市場環境変化の影響を受けて減収となりましたが、当四半期は、まだ力強さはないものの、市場環境に回復の兆しが見えてきました。一方、欧米では、ポートフォリオの再編を進めた結果、前年同期比7億円の減収となりました。

利益面では、収益性の高いドラッグ＆デバイス（D&D）事業やDM事業の拡大に伴うポートフォリオミックス改善により、事業利益率は前年同期の12%から14%へと改善しました。ホスピタルカンパニーの収益性は回復基調になりつつあると見ています。

血液システムカンパニー: 新興国、アフェレシス治療が継続伸長

（億円）

	14年度Q1	15年度Q1	増減率	為替除く
売上高	235	260	+11%	+3%
事業利益（率）	42 (18%)	54 (21%)	+28%	+35%

＜売上面＞

- アフェレシス治療や細胞増殖システムが継続成長　＋14億
- 新興国中心に成分採血が伸長　＋ 9億

＜利益面＞

- Q1では米国・血液センターに対する新価格への移行遅れ。Q2以降顕在化
- 米国生産・欧州販売製品での対ドル・ユーロ安の影響

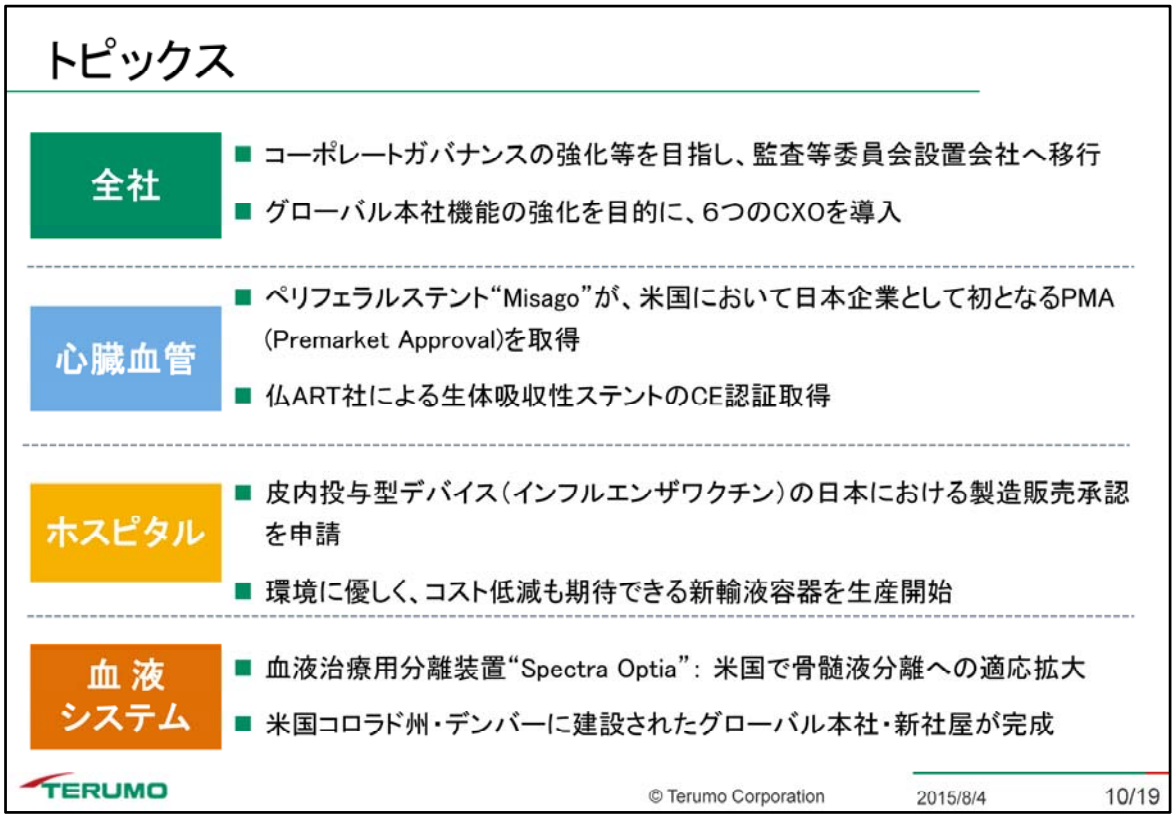
TERUMO　© Terumo Corporation　2015/8/4　9/19

血液システムカンパニーの売上高は、前年同期比11%増の260億円、為替の影響を除き3%増となりました。事業利益は前年同期比28%増の54億円、為替の影響を除き35%増となりました。

売上面では、前期に引き続きアフェレシス治療、細胞増殖システムが成長するとともに、新興国を中心に成分採血が伸長しました。

利益面では、米国の血液センター向けの事業において、新価格への移行が遅れており、当四半期の事業利益は高い水準となりましたが、第2四半期以降は、価格低下の影響が顕在化すると見ています。第2四半期以降の収益は厳しくなる見込みです。

当カンパニーの事業利益における為替の影響はマイナスに寄与しています。BCT買収後、米国での生産と米国から欧州への輸出が増加する中、前年同期比で、対米ドルでユーロ安が進んだ事が主な要因です。



業績面での直接の影響はありませんが、当四半期における重要なトピックスをご紹介いたします。

全社のトピックスとしては、コーポレートガバナンスの強化等を目指し、監査等委員会設置会社へ移行しました。また、前期はカンパニーを軸としたグローバル経営を推進してきましたが、今期は、グローバル本社機能の強化を目的に、6つのCXOのポジションを設置しました。

心臓血管カンパニーでは、ペリフェラルステント「Misago」が、米国において日本企業として初となるPMA（Premarket Approval）を取得しました。また、フランスのART社が開発している生体吸収性ステントが、欧州のCE認証を取得しました。

ホスピタルカンパニーでは、インフルエンザワクチン用の皮内投与型デバイスの日本における製造販売承認を申請しました。また、環境に優しく、コスト低減も期待できる新輸液容器の生産を開始しました。

血液システムカンパニーでは、血液治療用分離装置「Spectra Optia」が、米国で骨髄液分離への適応拡大が認められました。また、米国コロラド州・デンバーにあるグローバル本社の新社屋が完成しました。

15年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品		地域	ローンチ
心臓	新DES（Ultimaster）	◎◎★	日	
	次期血栓吸引カテーテル		欧・南米・亜	
ペリフェラル	ステント（膝上）	★	米	済み
	ステント細径化（Misago）		欧	
	PTAバルーン（膝上）		欧・米	
	PTAバルーン（膝下）		日	
	塞栓用ビーズ	★	欧	済み
脳	コイルアシスト・ステント	◎	日	済み
	液体塞栓剤	★	欧	済み
	プロテクションデバイス	★	欧	

領域	製品		地域	ローンチ
CV	遠心ポンプ・ディスポ（PCPS用）		日	
血液	自動製剤化システム	★	日	

ステント膝上（Misago）
米国ローンチ

液体塞栓剤（PHIL）
一剤型プレフィルドシリンジ

コイルアシストステント（LVIS Jr）
世界最細デリバリーシステム

塞栓用ビーズ（LifePearl）
薬剤溶出性、欧州ローンチ

◎ 業績貢献 大、★ イノベーション度 高

TERUMO

© Terumo Corporation

2015/8/4 11/19

2015年度のパイプライン製品のローンチ状況です。

前回の決算説明会の際にお示ししたパイプラインの内、当四半期に4つの製品をローンチしました。ペリフェラル領域では米国で「Misago」、欧州で「塞栓用ビーズ」、脳（ニューロバスキュラー）領域では、日本でコイルアシスト･ステント、欧州で液体塞栓剤をそれぞれ発売しました。

2015年度のパイプラインの中でも、最大の収益貢献が見込まれるのは、新DES「Ultimaster」の日本でのローンチです。現在、下期の発売を目指して準備を進めています。

参考資料

© Terumo Corporation

事業別 地域別売上高と伸長率（15年度Q1）

（億円）

事業セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	113 (−4%)	519 (+12%)	169 (+5%)	219(+12%)	71 (+42%)	60 (+13%)	632 (+9%)
うちカテーテル※	85 (−7%)	410 (+17%)	136 (+7%)	158(+19%)	67 (+45%)	49 (+20%)	495(+12%)
ホスピタル	302 (+4%)	93 (−6%)	25 (−16%)	20 (−2%)	5 (+38%)	43 (−4%)	395 (+2%)
血液システム	25 (−8%)	235 (+4%)	65 (+2%)	119 (+1%)	14 (+68%)	37 (+8%)	260 (+3%)
合計	440 (+1%)	847(+8%)	259 (+2%)	359 (+7%)	90 (+45%)	140 (+6%)	1287 (+5%)

※ニューロバスキュラー事業含む

（ ）内は為替影響除く対前年同期伸長率

TERUMO

© Terumo Corporation

販管費

（億円）

	14年度 Q1	15年度 Q1	増減	増減率	為替除く増減率
人件費	169	191	+22	+13%	
販促費	37	41	+4	+8%	
物流費	27	28	+1	+3%	
償却費	59	69	+10	+17%	
その他	87	88	+1	+3%	
一般管理費計	379 (33.0%)	417 (32.5%)	+38	+10%	+2%
研究開発費	67 (5.8%)	79 (6.1%)	+12	+18%	+10%
販管費合計	446 (38.8%)	496 (38.6%)	+50	+11%	+3%

（ ）内は対売上高%

TERUMO

© Terumo Corporation

四半期の動き

（億円）

	14年度 Q1（4－6月）	Q2（7－9月）	Q3（10－12月）	Q4（1－3月）	15年度Q1（4－6月）
売上高	1,149	1,184	1,299	1,263	1,287
粗利益	607 (52.8%)	623(52.6%)	678(52.2%)	654(51.7%)	690(53.7%)
販管費	379 (33.0%)	385(32.5%)	405(31.2%)	424(33.5%)	417(32.5%)
開発費	67 (5.8%)	69(5.8%)	74(5.7%)	84(6.7%)	79(6.1%)
営業利益	161 (14.0%)	169(14.3%)	199(15.3%)	146(11.5%)	194(15.1%)
のれん等償却除く営業利益	202 (17.6%)	211(17.8%)	245(18.8%)	194(15.3%)	245(19.1%)

四半期平均レート						
	US$	102円	104円	115円	119円	121円
	EUR	140円	138円	143円	134円	134円

TERUMO

© Terumo Corporation

設備投資と研究開発費

（億円）

	年度見通し	Q1実績	進捗率
設備投資	420	80	19%
償却費※	450	109	24%
研究開発費	350	79	22%

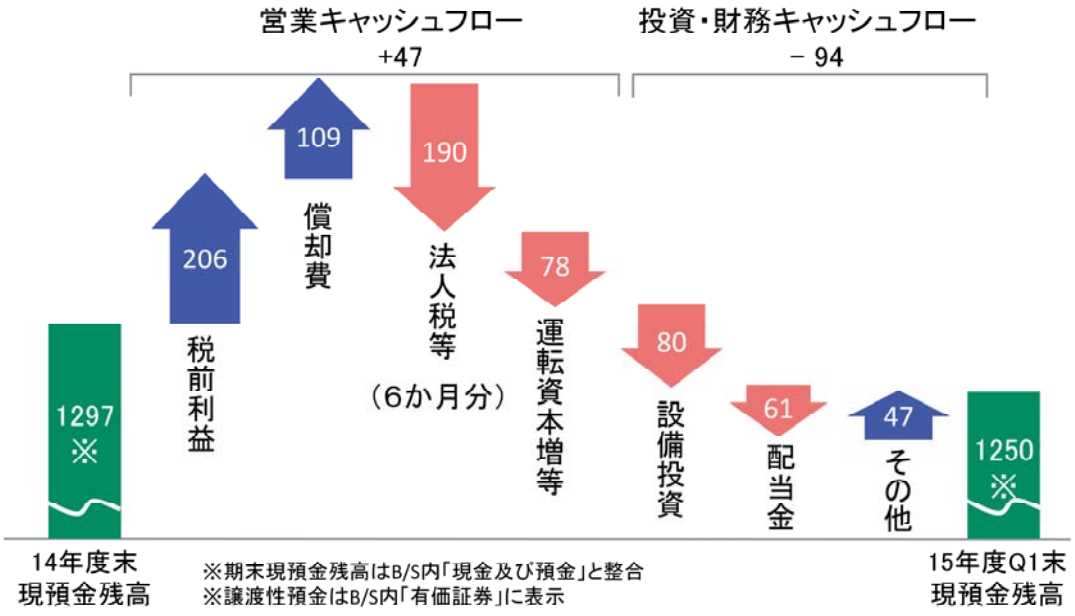
※のれん・無形資産含む、設備投資は取得ベース

© Terumo Corporation

キャッシュフロー

Q1は法人税負担大

（億円）



※期末現預金残高はB/S内「現金及び預金」と整合
※譲渡性預金はB/S内「有価証券」に表示

TERUMO

© Terumo Corporation

為替感応度

（億円）

	US$	EUR
売上高	18	7
営業利益	1	2

- ドルに関し、北米を中心とした売上拡大により売上感応度は高めに推移
  ただし、BCT買収後海外生産比率の上昇により営業利益の円安効果は縮小
- Q1の営業利益への影響 ： 期中平均 ドル19円円安、ユーロ6円円高で
  4億円のプラス効果

© Terumo Corporation

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。

© Terumo Corporation